

2018年度 自己評価公表

大阪信愛学院幼稚園

◎本園の教育目標

カトリック精神を基盤とする幼きイエズス修道会の教育理念に基づき、園児の全人格的な開発を目指す。一人ひとりが主体的に活動し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図り、また豊かな心をもって生活することのできる人を目指し、育成する。

キリストの教えに根ざした教育	神の愛によってつくられ、かけがえのない「いのち」を与えられている事を知り、日々の保育を通して祈る心、感謝する心を育てます。
一人ひとりを大切にする教育	自分が神からも人からも愛されていることに気づき、園児と教師、園児相互の関わり合いを通して一人ひとりが大切にされ、生かされている事を感じ、互いに思いやり、いたわり、励ましあって生活する態度を育てます。
自己形成を促す教育	自分で選んだ活動に取り組み、関わりながら充足感を味わい深めるように援助し、困難を乗り越える忍耐、努力、共同の態度を育てます。
社会貢献への自覚と態度を形成する教育	日常生活の場や社会の様々な出来事を通して、弱い立場の人たちと共に歩むことが出来るよう、人を思いやる心、奉仕する心を育て、自分は社会より期待されている存在であり、それに応えていく存在でもある事を自覚する心を育てます。

◎中間目標

保育公開 保育公開することにより、気づき・見直し・専門的知識及びスキルの向上を図る	・人員配置を工夫したり調整し、自分以外の保育者の保育を観察し子どもの動き・保育者の動き・環境設定を見て学ぶ時間を確保する
宗教教育(心の教育) テーマに沿った個人の思想・意思を互いの違いを見つめつつ分かち合う	・会議や保育後の時間を利用してワークショップなどを取り入れながら互いの特性や違いを知り、分かち合う中で豊かな心を養う
園内研修① 自己研鑽(言葉遣い・行動)のための研修を様々な形で行う	・間違えやすい言葉使いや正しい言葉使いについてや、様々な行動によって感じる快・不快の印象などを分かち合い、より良い印象を与える保育者を意識し、日々の実践に取り入れられるようロールプレイングなどを取り入れ実践できるよう努力する。
園内研修②(スキル向上) 園内の相互保育見学の実施と実践内容の向上	・園内の自分以外の保育者の保育を観察する ・魅力を感じた保育者の保育を考察し必要に応じて取り入れ方などを共有する中で自分の保育に取り入れられるように工夫する。

◎本年度の取り組み内容及び自己評価

中間的目標	取り組み状況	自己評価
<p>保育公開 保育公開することにより、気づき・見直し・専門的知識及びスキルの向上を図る</p>	<p>保護者に対しては6月から2月の保育日を参観可能とし、日々の保育を公開している。 また、職員の時間の調整や協力によって他のクラスの保育の観察を行う時間を持つことが出来た。</p>	<p>保育後の時間を利用し、公開するための保育にならないように心がけながら、準備としてピアノの練習や教具の提供などスキルの向上を図るよう努めた。また、保育者は保育見学を行うことで保育方法や保育者の関わり、環境構成など多くの学びがあった。全職員が保育見学を行う時間を確保することは難しかったが、保育見学を行った保育者から学びが多かったとの意見がありこれからも時間の調整が可能な限り実施したい。</p>
<p>宗教教育(心の教育) テーマに沿った個人の思想・意思を互いの違いを見つめつつ分かち合う</p>	<p>毎日の朝礼の際に「心の深呼吸」の本を読み、それについて自分が感じたことをみなに分かち合う時間を持っている</p>	<p>前年度より引き続き、朝礼・終礼時を利用して聖書に親しむ時間や学院ミサの参加、自己と向き合う1日の振り返りの時間は確保出来ているものの新たに組み込んだものは無かった。</p>
<p>園内研修① 自己研鑽(言葉遣い・行動)のための研修を様々な形で行う</p>	<p>小グループでいくつかの事例について保護者役・教師役・観察役に分かれてロールプレイングを行いグループ内で感じたことをアドバイスし、共有するために会議で発表した。</p>	<p>分かち合い振り返る機会を持ったことでその後の言動を意識し過ごすようになったが引き続き自分のものになるように研修の機会を持つことが望まれた。</p>
<p>園内研修②(スキル向上) 園内の相互保育見学の実施と実践内容の向上</p>	<p>他のクラスの保育を見学する時間を持つようにし、見学して感じた事・学んだ事を会議で発表し分かち合った。</p>	<p>相互保育見学の充実を図った。そのことにより保育スキル・保育室の環境構成・保育者の言葉使いと態度の振り返りや気づきが生まれた</p>

◎自己診断の結果と分析

職員の学校自己評価アンケート(別紙参照)を7月と3月に同アンケートを行い大幅にアンケート結果が変化した項目について注目し考察を行った。

園内研修

今年度新たに非常勤の職員に対してモンテッソーリ教育の研修を実施し、理論や教具の提供方法を学ぶ機会を持った。常勤職員に対しては前年度と同様にペアによる学びあいの研修の実施を計画したが年度の後半になるにつれ実施が難しくなり、計画通りに進まなかったため次年度に向けて研修の進め方を再検討する必要がある。70.0%(2月時 80.0%)10.0%減

保育公開について

以前より保護者に対して6月から2月までの期間を保育参観可として公開してきた。その下準備として日々の子どもの自然な様子をどのように公開するかの検討をする必要があったが、会議や終礼時を利用し、保育室の環境構成や保育者の立ち振る舞いについてなど分かち合う機会があったことで定期的に各保育者が日常を振り返り、自分の保育について考える時間が持てたことで日々の保育の向上に繋げることができた。75.0%(2月時 33.3%)41.7%増

宗教教育(心の教育)

自己啓発のきっかけとして片柳神父の「心の深呼吸」という本を順番に毎日読み進め、短いメッセージから日々の心の向け方・物事の進め方など、癒しや気づきの場にし、分かち合い日々豊かな心を養う時間を持つようにした。65.0%(7月時 26.7%)38.3%増

園内研修①について

保育者の相互参観の充実を図ることで保育者の言葉使い・態度の振り返りや気づきのきっかけになったこと、会議の中で電話の対応や保護者の対応について考察したり、ロールプレイングする事で相手の気持ちを考えた言葉選びなどを考えるきっかけ作りを行った。65.0%(7月時 26.7%)38.3%増

園内研修②(スキル向上)について

保育者の相互参観の充実を図ることで保育室の環境構成・園児との関わり方や保育準備の方法・保育自体の進め方など振り返りや気づき・学びの場となった。70.0%(7月時 33.4%)36.6%増

信愛教育の継承について

週に1度信愛教育を職員一同で唱和を行っているが内容について更に深く掘り下げる発展的な研修を今年度は行うことが足りなかったため継承につながる成果が見られなかった。教職員同士学び合う機会やシスターによる講話などの機会を増やしていきたい。55.0%(7月時 93.4%)38.4%減

トラブル回避について

経験者・担任・フリーも含めてロールプレイングを行い保護者とのコミュニケーションのとり方、話し方・聞き方の研修を重ねた。その結果自分の姿勢・言葉【表現】の少なさに気づき新たな目標が出来、手ごたえがあった。95.0%(7月時 46.6%)48.4%増

学校関係者からの意見

特別支援の子どもがクラスにいることにより、子ども達が人を助けたり寄り添ったりということを当たり前出来る環境にあるということはとても意味のあることだと思う。この事は信愛の教育目標に基づいている。しかし、特別支援の子どもを迎えるということはとてもデリケートなことでもあるので先生の本人に対するフォローと同時に周囲の子どもに対するフォローも必要となり職員体制が重要と考える。昨年に比べ今年度はその体制も一層充実していたと感じた。担任の先生と支援の先生との連携も取れていた。

自由参観として保育を公開することは子どもたちの日々の園生活を知ることのできるとても貴重な機会である。この事は保護者にとっても安心や信頼につながる。

園内研修や他のクラスの保育参観に力を入れて取り組まれているとのことで教職員の保育に対する意識の高さが伺える。しかし保護者には伝わり辛い為、お便りなどでどういった研修を行ったか、どういった取り組みをされたかという発信があってもよいと思う。

モンテッソーリ教育においては「こうしなければならない、こうでなければいけない」ということはなく、それぞれの子どもの自主性を尊重して取り組んで頂いていると感じる。先生方の姿を見て親として自分の行いを見つめ直すきっかけとなる。

宗教教育の取り組みにおいては子ども達にとって神様を身近に感じていることが伝わる。誰も見ていない所でも目に見えないものの存在(神様)を感じ感謝の気持ちを表し、正しい行いができる子どもが多いと感じる。

教職員研修においてはバス乗車の先生の対応や電話対応など新任の先生でもとても丁寧な姿勢で対応して下さったり。美しい言葉遣いであつたりすることで信愛らしい礼儀正しさが伝わる。このような些細なことからも研修が行き届いていることを感じる。

災害の多い年であったが一斉メールのおかげで落ちついて行動ができた上、安心出来たのでありがたかった。ただ説明不足だったり言葉足らずなことがあると、そのことに対して園に連絡が殺到することもあるのでメールの意味がなくならないよう気を付けなければならない。安全面以外でもクラス別・学年別・係別に発信でき連絡がスムーズにできて良かった。また避難訓練が年に数回あることで本当の地震で役立った。